

平成29年度 地域連携活動報告書

|        |  |      |          |
|--------|--|------|----------|
| 連携先名称  | 鹿児島県大島郡喜界町   | 担当教員 | 杉原たまえ    |
| 活動状況   | 継続中  | 関連教員 | 豊原秀和名誉教授 |
| 協定締結日  | 2016/7/28  | 活動資金 | 個人       |
| 活動内容   | <p>【喜界島の農業概況】耕地面積：2250ha、経営耕地面積：2057ha、総農家数：682戸。<br/>喜界島は、奄美大島の北東130度上に位置し、島の周囲は48.6km、山はなく平坦な島である。住民は約7,600人。基幹産業は農業であり、主要作物はサトウキビに次いでゴマ、肥育牛、僅かに果樹栽培が見られる。喜界島は、耕地面積2,250haのうち1,900haがサトウキビ栽培である。耕作放棄地の全くない島といわれ、耕地面積の8割は灌漑が完備されている。高齢化が進み、後継者も少なくなってきた現状の中で、サトウキビ生産は、重労働であり、サトウキビ単作での発展は大変難しいと思われる。</p> <p>【2017年度の活動内容】</p> <p>(1) 導入作物の試験栽培<br/>喜界町役場農業振興課営農支援センターの圃場において、東京農業大学宮古亜熱帯農場から導入したヤマイモ5品種の栽培試験を行った。導入時期が遅れたため、想定した収量に達しなかったが、栽培の見通しを付けることができた。</p> <p>(2) 空き屋敷対策<br/>喜界島は人口流出が大きく、空き屋敷が多く見受けられる。空き屋敷は住居があるものと更地になっているものもある。空き家敷きの持ち主も内地に居住拠点を移している人も多く、さらには管理する人もいない状況にある。そこで、役場に対して空き家敷きの利用を提案した。屋敷は石垣や防風林などに囲まれているため、防風対策がすでにできている。そこで、役場農業振興課営農支援センターの協力を得て、空き屋敷の利用について検討した。</p> |      |          |
| 活動成果   | <p>(1) 支援センターの展示圃場で試作を行ったヤマイモ栽培の見通しが立ったため、2018年3月に支援センター会議室において、農家約30戸を対象に、ヤマイモについてのミニ講座を開催するとともに、農家へのヤマイモ栽培普及を目的に、栽培指導と種芋の分配を行った（2018年度から30農家が栽培を始めた）。</p> <p>(2) 柑橘類の見本園への島民の関心は高く、空き屋敷対策の一助になることが予想される。2017年度は、まず畑の周りには台風対策用にイヌマキと銀杏を植え、強固な防風林対策を行った。空き屋敷の裏にある畑20aほどを利用し、島固有の柑橘類（花良治ミカン92本、島ミカン12本、ぶすー14本、タンカン6本、ボンカン11本、ボンタン2本、コーヒー20本など）を植栽した見本園を開設した。果樹園の開設にあたっては、国際農業開発学教科熱帯作物学研究室の学生4名が参加した。</p>   |      |          |
| 課題・改善点 | <p>課題は、活動資金が不足していることである。連携先の喜界町役場は、2017年の豪雨による道路や山崩れなどの対策を、優先事項として抱えている。そのため、本連携事業に係わる補助金が支出できない状況である。現在の活動は、喜界島出身の豊原秀和（本学名誉教授）の個人資金を原資として行っている。行政の積極的な協働体制の構築が望まれる。</p>   |      |          |